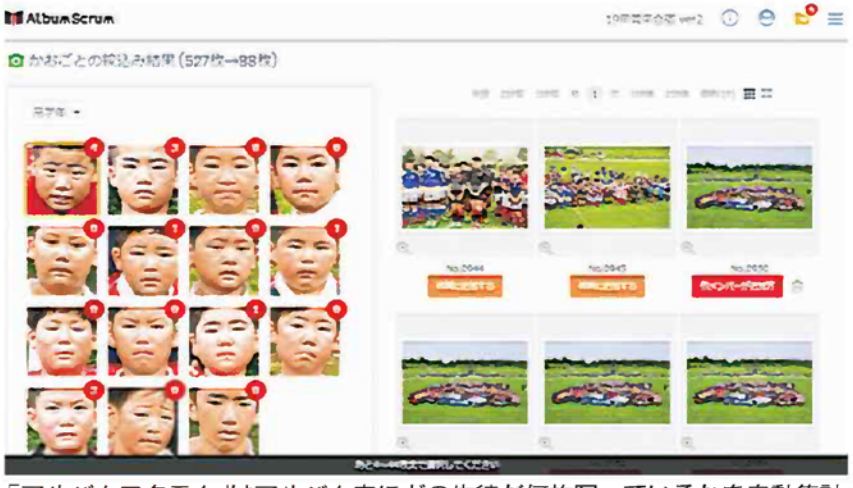
卒業アルバムはＡＩにお任せ



「アルバムスクラム」はアルバム内にどの生徒が何枚写っているかを自動集計

新型コロナウイルスの影響ですっかり変わった学校生活。その影響は卒業アルバム制作にも及んでいる。行事の中止で写真が減っていることに加え、マスクの着用でどの生徒が写っているかの判別がしにくいといった悩みが学校現場では起こっている。そうした問題に対応しようと、人工知能（ＡＩ）などを活用した新たなアルバム制作サービスの利用が増えている。

オンライン写真販売を手掛けるエグゼック（東京・目黒）は卒業アルバム作成を支援するサービス「アルバムスクラム」を２０２０年７月に始めた。サービスの特徴の一つがＡＩによる顔検索システムだ。

生徒の顔を事前に登録すると、特定の生徒が写った写真を即座に検索できる。マスクをしていても生徒を判別することができるといい、コロナ禍の写真にも対応している。アルバム内にどの生徒が何枚写っているかを自動集計できる。登録済みの写真から特定の生徒の写真を探す機能もあり、すぐに写真を差し替えられる。生徒の個人情報保護のため、顔写真データはアップロード後14カ月たったら自動的に削除される。

千葉県柏市立手賀西小学校では20年に「アルバムスクラム」のサービスを導入した。同校はこれまで卒業アルバムを制作する時に、特に大変だったのが写真の選定だという。生徒の登場回数を正の字で1人ずつカウントし、登場回数が均等になるよう調整を行っていた。同サービスを導入することでアルバム制作時間を約半分にまで短縮できた。同校の東條正興主幹教諭（39）は「マスクをした写真も多く、ＡＩがなければ写真選定は難しかった」と話す。

枚数平等・マスクでも顔判別

「アルバムスクラム」のサービスを導入する学校数は20年が約３００校、21年は７００校となった。「コロナ禍をきっかけにアルバム制作を見直す学校は増えている」と、エグゼックの山中淑史取締役は話す。

「はいチーズ！ アルバム」は自宅などからアルバム作成を行える

ＡＲアプリ「卒ＡＲｕ」を卒業アルバムにかざすと動画が流れる

千（東京・千代田）の卒園・卒業アルバム制作支援サービス「はいチーズ！ アルバム」も、顔認識ＡＩ技術を使って、子供ごとの写真枚数を自動集計できる。アルバム内に出てくる子供の写真の数をできるだけ同じにする作業を減らせる。

幼稚園や保育園の卒業アルバムは保護者が主体となって制作するケースが多く、コロナ禍以前は園に集まって作業を行っていたという。一方、「はいチーズ！ アルバム」